

MVPモデルの拡張に基づくARCS-VモデルのV要素下位分類の提案

Proposal of the subcategories of the volitional element for the ARCS-V model based on the expansion of the MVP model

中島康二*1*2

中野裕司*1

渡邊あや*1

鈴木克明*1

Koji NAKAJIMA*1*2

Hiroshi NAKANO*1

Aya WATANABE*1

Katsuaki SUZUKI*1

熊本大学大学院教授システム学専攻*1, 大阪学院大学*2

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University*1,

Osaka Gakuin University*2

<あらまし> 学習意欲を取り扱ったインストラクショナルデザインの代表的なモデル「ARCS モデル」が近年、提唱者である J. M. Keller によって「ARCS-V モデル」として拡張されている。ここでは、「意志 (volition)」の要素に焦点が当てられ、一旦動機づけられたあと、その意志を学習目標到達まで持続させるための方策が必要であることが明示された。現在の日本国内における ARCS モデルの理解にこれらの変化を反映し、現場実践に資するものとするための V 要素の下位分類を提案する。

<キーワード> 学習意欲の動機づけ, ARCS モデル, ARCS-V モデル, MVP モデル

1. はじめに

インストラクショナルデザインの代表的なモデルのひとつで、1983年にJ.M.ケラーにより提唱された ARCS 動機づけモデルは近年、意志 (Volition) の要素を加えて ARCS-V モデルとして拡張されている (鈴木, 2010)。また、ARCS-V モデルへの拡張の基礎となった、動機づけの MVP マクロモデルもパフォーマンスに係る新たな説明が加えられ、拡張された (Keller, 2010)。一方、50カ国以上で研究されている ARCS モデルの、日本国内における関連研究の件数は、1996年から2009年の間に33件あり (鈴木ら, 2010)、特に2003年以降上昇傾向にあることから、国内においても ARCS モデルが浸透しつつあることがわかる。このため、拡張された ARCS-V モデルを読み解き、既存の ARCS モデル同様に、実践向けに下位分類すること、さらにこれを日本語版で提案することは、ARCS モデル研究、そしてモデル利活用の両側面において意義のあることと考えられる。

2. ARCS モデルの拡張

ARCS-V モデルにおける、拡張された V 要素は、学習者が一旦動機づけられた後、学習目標を達成するまで努力し続けることに対して、その自己制御力を支援する方略・方策を提案しようとするものである。

2. 1. V 要素の守備範囲

V 要素は、学習者が動機づけられ、努力が始動されることから、努力が持続され、パフォーマンスが継続される部分について、目標達成されるまでの意志を支える。

2. 2. マクロモデルから MVP モデルへ

鈴木 (2010) は、マクロモデルは「意志」に関する説明を新たに加え、Keller (2010) はさらに、パフォーマンスを支える、動機づけと情報処理の関係性について説明を加えた (図 1)。

3. ARCS-V モデルの V 要素下位分類

V 要素の拡張を受けて ARCS の各要素に倣って、V 要素の下位分類を表 1 のように提案する。これは、V 要素の守備範囲を 3 つの区分に分け、それぞれの区分に関するキーワードをピックアップしたものである。つまり、【第 1 区分】動機づけられ、努力を始動するための実行意図を固めること、【第 2 区分】努力を行うに当たって想定される障壁に対し、予め適切な分量・内容となるよう制御しておくこと、【第 3 区分】努力の継続に当たって、学習の進捗、学習目標までの自分自身の現在の位置を見定めること、が重要と捉え、これらの点で学習者を支援する方略・方略を提示することを目指すものである。これを受け、日本語版の V 要素下位分類を表 1 にまとめた。

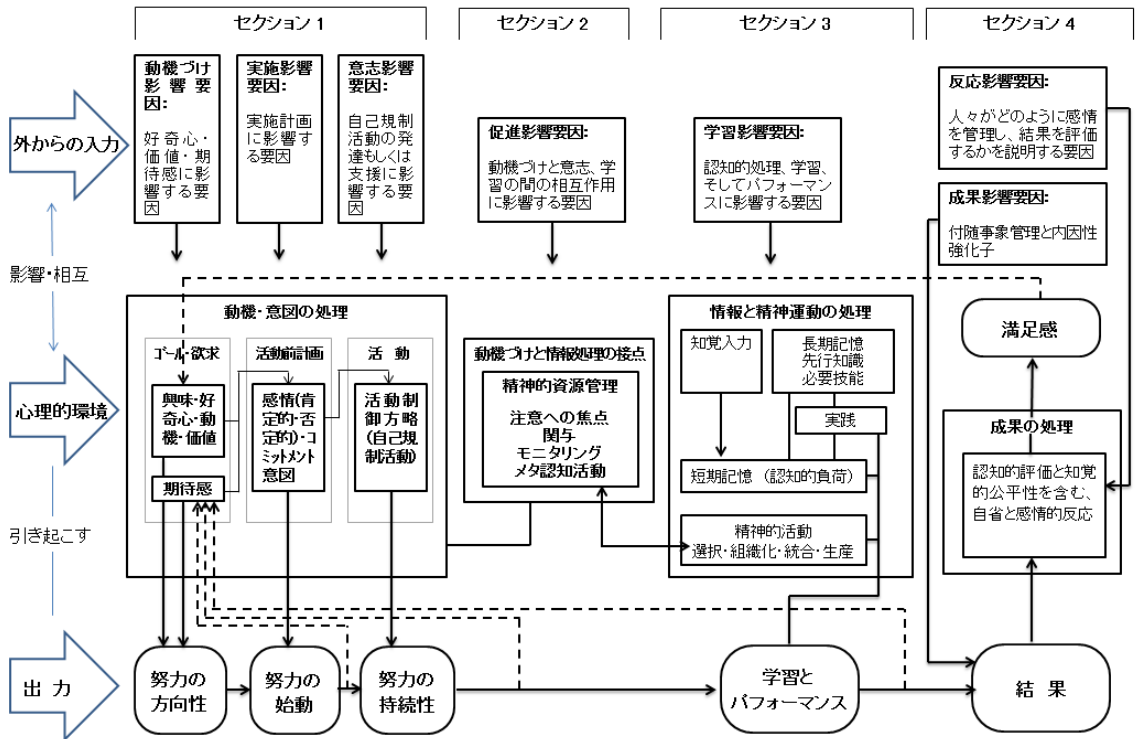


図 1. MVP (Motivation, Volition, and Performance)モデル概念図(Keller, 2010)を和訳した。

表 1. ARCS-V モデル V 要素の下位分類

区分	主旨
V-1 Implementation Intention 意図の形成	やる気を明示させる
V-2 Appropriate Self-control 妥当な制御	許容範囲でコントロールさせる
V-3 Self-monitoring 自己モニタリング	自分の状況を理解させる

4. おわりに

本稿では、拡張された ARCS-V モデルの V 要素に日本語版下位分類を提案した。今後は、これらの下位分類に基づき、意志を支える方略の提案を試みるほか、V 要素が拡張されたことによる既存 ARCS モデルへの影響などについて調べたい。なお、8月に本提案に関する妥当性についてクレー本人にインタビューを行う予定である。

謝辞

本研究は、平成 24-26 年度日本学術振興会科研費(基盤研究(C):課題番号 24501225)の補助を受けている。

付記

本発表は、Nakajima et al(2012)の一部を翻訳し、再構成したものである。

参考文献

Keller, J.M. (2010) Challenging in Learner Motivation: A Holistic, Integrative Model for Research and Design on Learner Motivation, The 11th International Conference on Education Research, 1-18
 Nakajima, K. et al (2012) Research for proposing the subcategories of the volitional element for the ARCS-V model, International Conference on Media in Education 2012 (掲載予定)
 鈴木克明 (2010) ARCS モデルから ARCS-V モデルへの拡張, 第 17 回日本メディア教育学会全国大会, 115-116
 鈴木克明, 根本淳子, 合田美子 (2010) 我が国における ARCS モデルを巡る研究動向, 第 35 回日本教育システム学会全国大会, 99-100